

常本地区発掘調査概要

1978

神戸市教育委員会

例　　言

1. 本書は、常本地区の土地改良工事に伴なう埋蔵文化財の発掘調査として国庫補助事業（調査費900,000円）により調査を実施した概要報告書である。
2. 調査は、神戸市教育委員会から財団法人元興寺仏教民俗資料研究所に委託し、同研究所考古学研究室岡本一士が担当者となって実施した。
3. 調査期間は、昭和52年10月15日着手し、昭和53年3月31日終了した。
4. 調査期間中において常本地区土地改良組合はじめ、常本地域住民の方々の御協力と配慮を受けた。調査を実施した元興寺仏教民俗資料研究所とともに厚く感謝の意を表したい。

1. はじめに

神戸市垂水区常本地区周辺は、明石川によって形成された河岸段丘である。この段丘上に遺跡は分布している。現在、農地改良工事が実施されているが、その工事に先立って分布調査と確認調査を神戸市教育委員会により実施した。この成果は、『常本地区発掘調査概要』(1977)として教育委員会より刊行した。その時の調査内容によれば、「工事予定区域内については、耕土直下に地山」が認められ、過去の農地開発（常本地域に伝承として残る）のため地形が変更を受けたため遺構は残存しなかったと判断した。また工事関連区域では、遺構・包含層が発見されたが、先の状況と同様に削平されている場所が多くあった。しかし、段丘南端については、他の場所と比較して遺構が残存していると推察された。

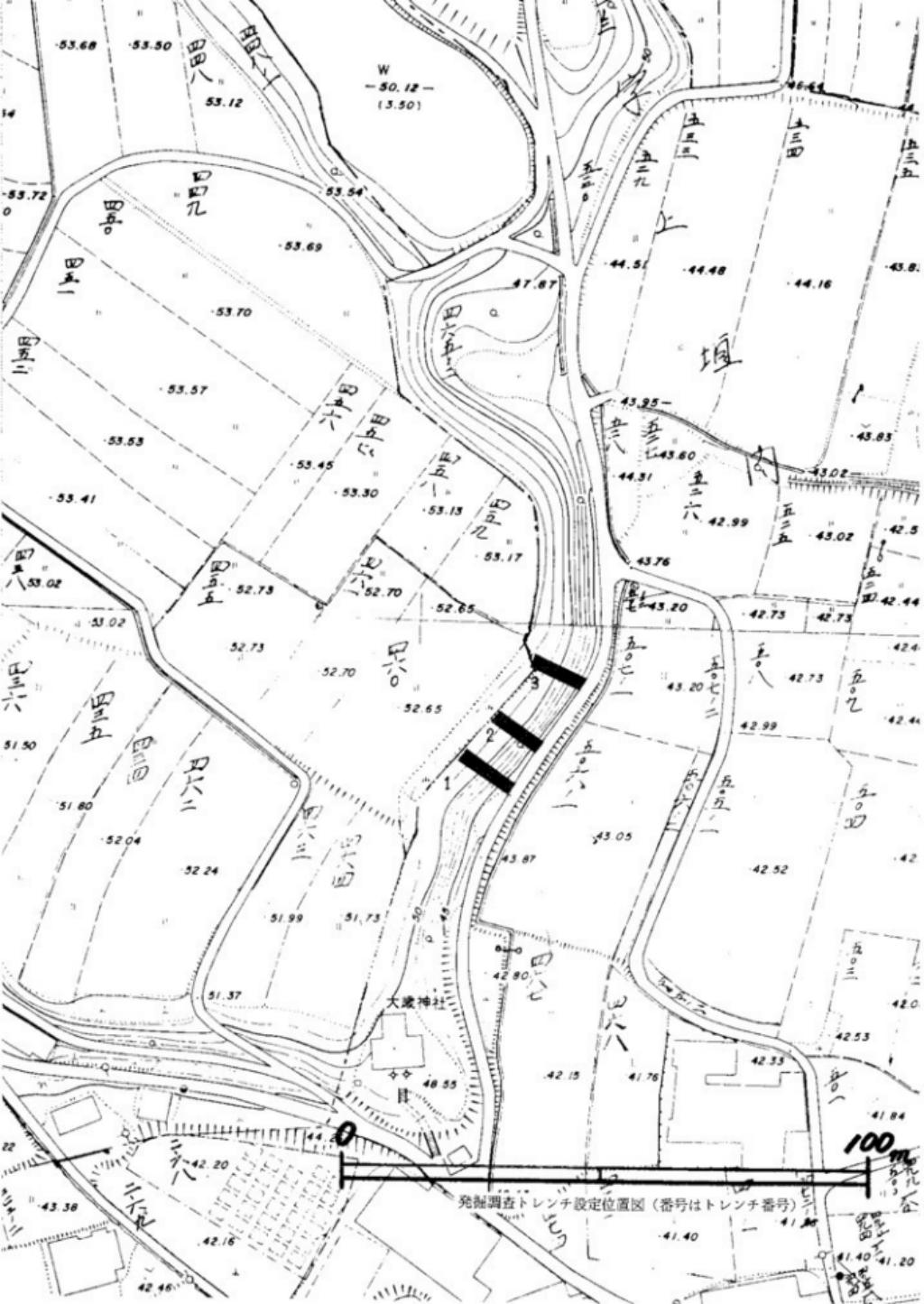
その段丘南端から斜面にかけては、昭和48年に蔵骨器が出土している。発見の契機は、農道を段丘斜面下に設定するため裾部を掘削したことにある。市教育委員会では状況を調査するため現地に向い、蔵骨器の破片を採取した。その時の出土場所は、斜面裾部の4ヶ所に分布していた。出土状態は、いずれも地山を掘り下げ安置してあった。そのうち三耳壺の状態について記すならば、地山まで穴を穿ち壺を正位置に入れ、口縁部を封じるかのように小石を積み重ねていた。さらに土砂を重ねていたが、上部に墓標の有無は緊急なことであったため確認できなかった。

以上の昭和48・51年の状況によって、段丘南端と斜面周辺に遺構の存在が推察された。

昭和51になり土地改良工事が、遺構推察地にまで及ぶことが知られた。そのため市教育委員会では、段丘南端と斜面部分の2ヶ所に調査地を設け、別個に調査を実施した。今回ここに報告するのは、斜面部分の調査分である。調査の実施については、市教育委員会から元興寺仏教民俗資料研究所に委託し、調査後報告を受け編集刊行した。そして、昭和48年出土の蔵骨器を関連品として掲載した。

2. 昭和48年出土の蔵骨器

発掘状況を述べる前に、昭和48年出土の蔵骨器について若干記することにしたい。緊急出土のため破片であったが、後に整理すると4点の蔵骨器が復元された。（遺物番号と実測図番号は共通）



(1) 須恵質鍋 口径20.1cm・器高13.3cm・器厚0.5cm・胴部最大径22.6cm。口縁はく字を呈し、口縁端部を少し内に折り曲げる。胴部外面にはタタキ目があり、底部はナデ調整を施している。胴部内面はナデ調整がなされているが、所々に同心円文の痕跡がある。茶褐色を呈し、焼成はやや甘いが胎土は良質である。他にあまり例をみないが、鍋状器形の範疇に入ると考えられる。近くの藤原山から類似品が出土している。この時の出土状況の推察から、12世紀初めと思われる。

(2) 須恵碗 口縁径16.6cm・器高5.4cm・底径7.4cm・器厚0.4cm。口縁部はやや外反し、内外共にナデ調整が施されてある。底部は糸切り整形である。灰青色を呈し、胎土は堅緻である。

(3) 土師壺 口縁径(15)cm・器高(13)cm・器厚1.2cm。

(4)鉢 口縁径33.5cm・器高10.2cm・器厚0.5cm。

(5) 三耳壺 口縁径22.8cm・器高57.1cm・器厚1.2cm。大形の三耳壺で、内外共にナデ調整が施されている。焼成も良好で、褐色を呈する。

藏骨器の器形を簡単に説明したが、考えられる時期は鎌倉～江戸時代にまで及んでいる。そのため、斜面周辺には中世からの墓地跡が存在するのではと、今回の発掘調査となった。

3. 調査概要

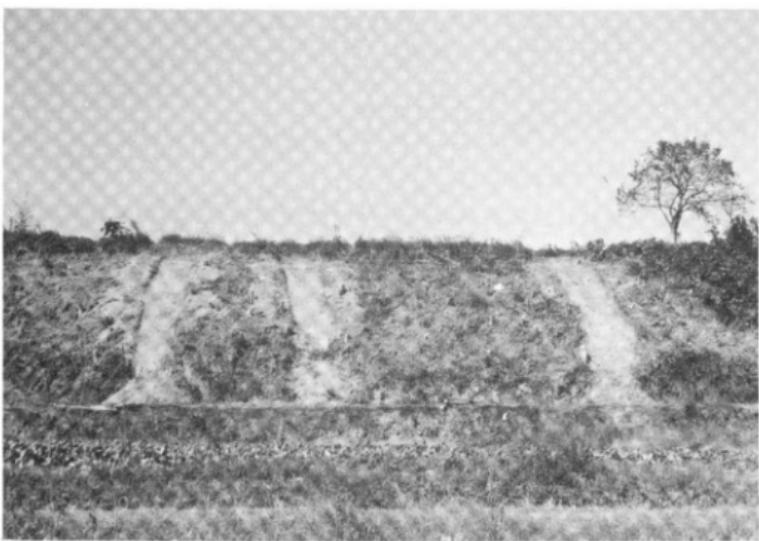
藏骨器三耳壺を出土した場所を中心に、段丘斜面に3本のトレーナーを設定した。そして、遺構が検出されれば周囲に拡張すべく、調査を実施した。

1・2・3の各トレーナー共に、長さ12m・巾3mのものを設定した。しかし、表土・堆積土を除去すると地山に達し、遺構はもとより藏骨器片すらも検出されなかった。このことより小規模な墓地と推察され、不連続的にこの場所に埋置したと思われる。また、農道設定で相当裾部が削られており、昭和48年に出土した藏骨器は範囲の上限を示すものと考えられた。

図版 1



調査地全景



同上（左より 1・2・3 トレンチ）

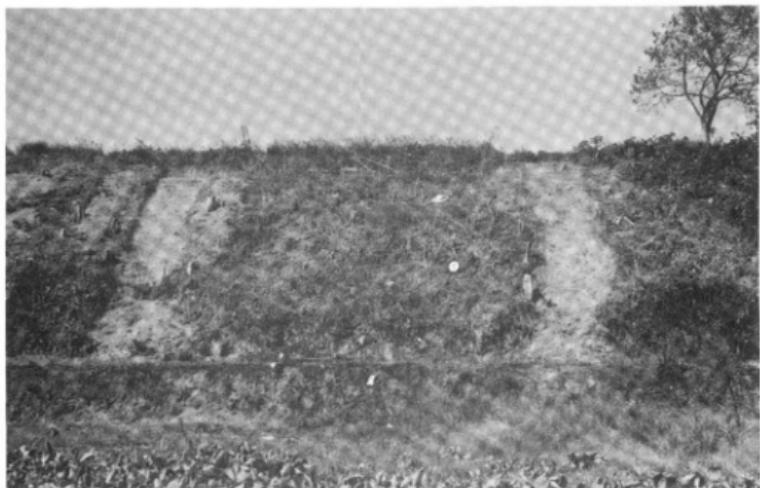


1・2 トレンチ発掘状況



同 上

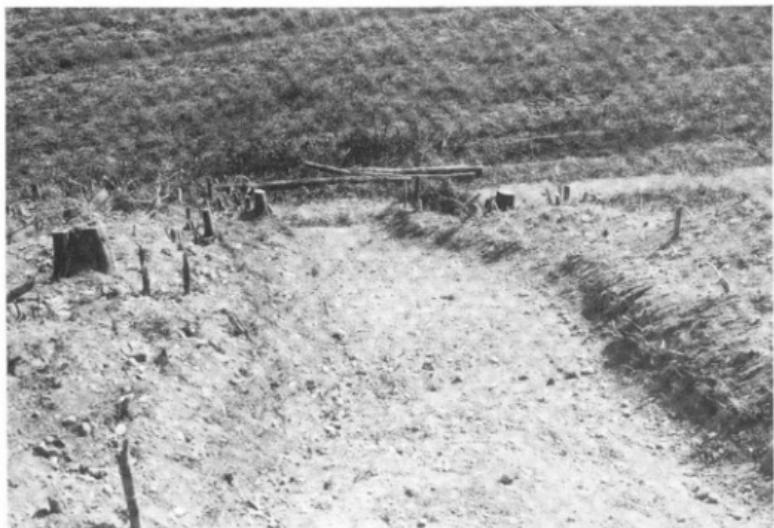
図版 3



2・3 トレンチ発掘状況



2 トレンチ（斜面下より）



1 トレンチ（斜面上より）



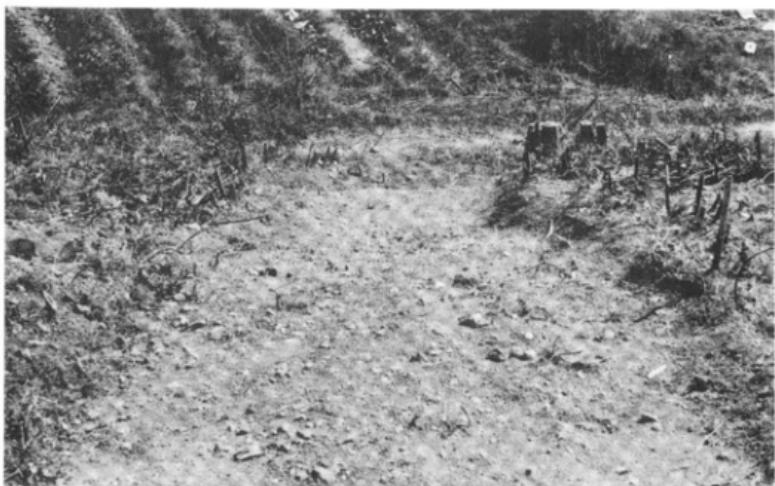
2 トレンチ（斜面上より）

図版 5

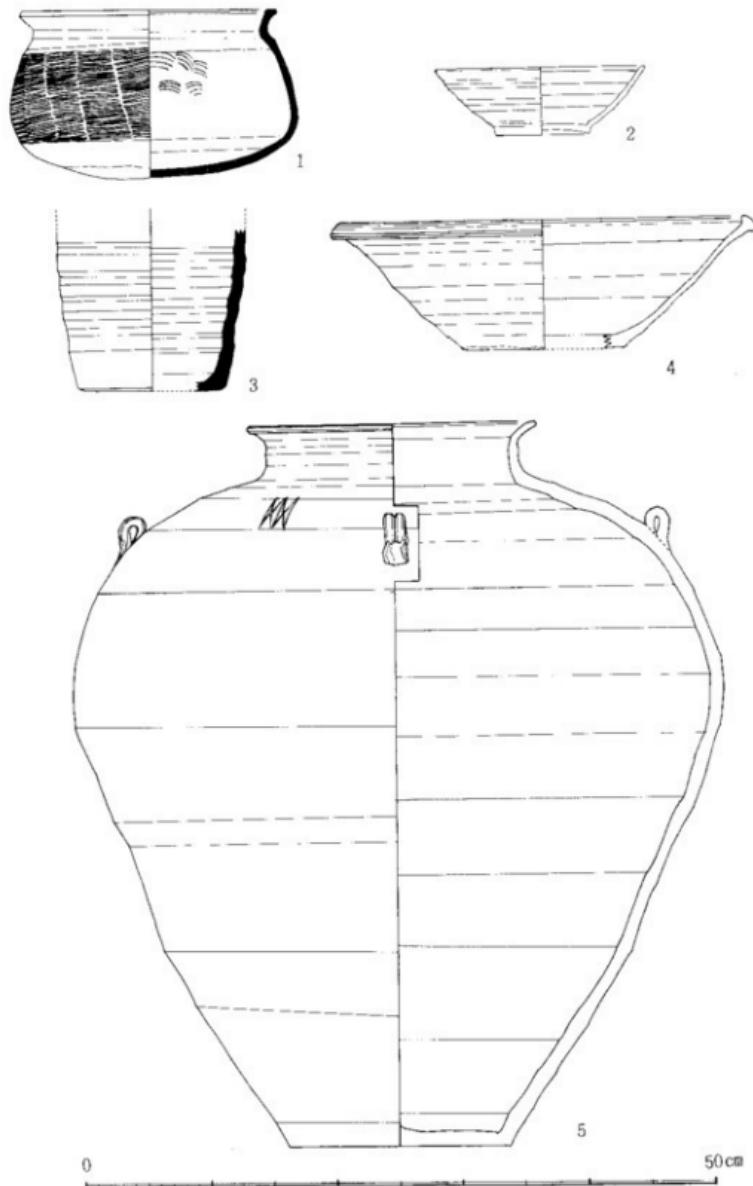


3 トレンチ（斜面下より）

下（斜面上より）



図版 6



昭和48年出土の蔵骨器（番号は本文と共通）

常本地区発掘調査概要

編集 神戸市教育委員会 文化課
発行

発行日 1978年3月

印刷 鳴共同精版